

## 庚申山 1892m～鋸山 1998m～皇海山 2144m 山行記録

栃木県連40周年記念40座山行

平成27年10月31日～11月1日

宇都宮山の会

参加者 T越、M本、M田

当初は松木沢から皇海山に登る計画でしたが、諸事情により庚申山荘泊、鋸山からのコースに変更しました。

10月31日、9:00集合。今日は庚申山荘までのゆっくり行程である。銀山平、かじか荘にて登山届、山荘使用料の支払いを済ませる。林道から一の鳥居、鏡岩と名残の紅葉を楽しみながらのんびりと歩く。途中で大学小屋の清掃に来たという宇大生のグループと行き交う。14:45庚申山荘着。今日は無人だが管理者が居る時もあるらしい。泊まり客は他に4名、みな明日皇海山に登るといふ。標高1500mの山荘はさすがに冷え込んだが、鍋と熱燗、そして小屋に用意されていた布団のおかげで暖かく眠ることができた。

11月1日、4:50星空と月明かりの中を歩き始める。ほどなく東の空の地平線を染めて太陽が昇ってくる。庚申山の奇石群の真上には弦月。何と美しい一日の始まりだろう。夜明けと共に庚申山山頂を過ぎると、朝日の中に皇海山が鮮明に姿を現す。日光の山々も一望できる。天気は申し分ない。庚申山～鋸山までは、深い笹原をかき分け、場所によっては信用できぬ鎖やハシゴの登降を繰り返しながら、いくつものピークを越えてゆく。

8:50鋸山山頂。展望を堪能してから、鋸山の急斜面を下り皇海山との鞍部に入ると不動沢のコル。静かな山域から一転、不動沢コースからの登山者で大賑わいである。

10:40皇海山山頂。長い行程ではあったが、従来は庚申山からの険しい峰々を越えてたどり着く奥宮だったのだろう。百名山の名のもとに失われていくものもあるように思う。

下山路は鋸山から六林班に降りるコースもあるようだが、我々は同じコースを戻る。皇海山側から鋸山をみるとまさに鋭い峰々の連なりである。またあの峰を越えるのか一。往路は登ってきたピークを反対側から登り返す。でも何度登り返すのだろう。

16:00庚申山荘着。荷物を詰めて出発。ここからは慣れ親しんだ登山道～。といっても疲れた身体には辛い道のりだった。落ち葉の深みに足をとられる、ザックが肩に食い込んでくる、日は暮れる。

林道終点18:30。お疲れ様でした。13時間超の山行であった。

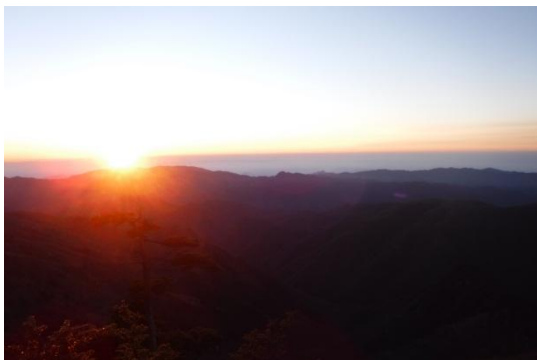
遥かなる皇海山。次回は松木沢から訪れてみたい。



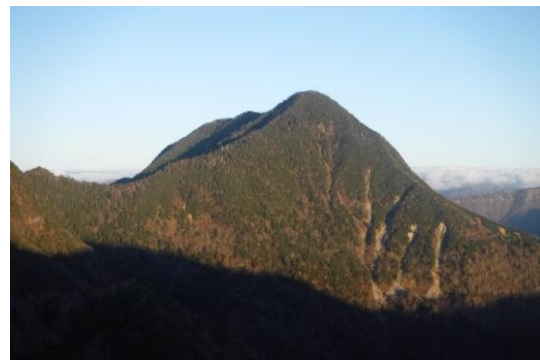
林道歩き



一の鳥居からの登り



庚申山登りにて日の出



見晴からの皇海山



鋸山を見上げる



鋸山手前の難所



鋸山



皇海山頂上